

国際ロータリー第2820地区

古河ロータリークラブ週報

30



2023-2024 森田 一雄年度 クラブテーマ

「奉仕を實踐し、地域に希望を生み出そう」



古河名誉市民 故 永井路子氏 ～ 鎌倉の自宅書齋にて(昭和60年頃)～

2023-2024年度
国際ロータリー会長
ゴードンR.マッキナリー



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度
国際ロータリー第2820地区
大久保 博之 ガバナー



地区スローガン
まちを磨けば、あなたが輝き、世界を彩る

- 設立：1966年(昭和41年)7月7日
RI加盟承認 1966年8月30日(13850)
スポンサークラブ土浦南ロータリークラブ
初代会長 井上 延太郎、幹事 岩崎 清
- 事務所：〒306-0021 古河市松並1-9-25 宮内 則雄
☎(0280)30-5004 fax(0280)30-5004
e-mail:ns50miyauchi@dreams.ne.jp
- 例会場：〒306-0041 古河市鴻巣1189-4
古河市商工会議所3階 ☎(0280)48-6000
- 例会日：毎週金曜日(第5金曜日は無し)
- 会長：森田 一雄(第58代)
- 幹事：宮内 則雄
- 会員数：正会員50名
- 発行：会報・雑誌委員会 斉藤 百合子 委員長
e-mail:yuriko19990430@gmail.com
- 公式HP：<https://koga-rotary.org/>

第2728回例会 2024年3月22日(金)

本日の例会プログラム

- 移動例会「はなもも苗木植樹及び贈呈式」
- 社会奉仕委員会 関 義明 委員長

次回の例会プログラム 4月5日(金)

- 月初めのお祝い
- 卓話「防犯対策について」
古河警察署 生活防犯課 警部補 荒木 一博 様

第2727回
2024年3月15日

移動例会「高尾山薬王院参拝例会」

挨拶

森田 一雄 会長

おはようございます。本日は、お忙しいところご参加の皆様ありがとうございます。この企画にあたり、山浦委員長と相良委員長には感謝申し上げます。山浦委員長には、ヤクルトと高尾山の深いご縁で便宜を計って頂きました。

高尾山は、都心から気軽に行ける山ということで人気がありますが、甘くみても、遭難の恐れもあります。麓には、山岳救助隊も控えていますので単独行動は、禁止です。くれぐれも事故のないように、今日一日、宜しくお願い致します。

乾杯



蓮見 公男 パスト会長

それでは、年配者ということでご氏名を頂きましたので、乾杯の挨拶をさせていただきます。ご住職様の講話にもありましたが、高尾山薬王院は、1270年の歴史があり、年間350万人が訪れる観光地でもあるということです。このような素晴らしい企画に参加させて頂き、感謝申し上げます。ロータリークラブの益々の発展と皆様方のご健勝を祈念して乾杯🍷

ゲスト紹介

関口 正子様 齊藤 ひなの様



毎年高尾山に参拝を続けているという山浦様。お世話になりました。



精進料理 名物の「とろろ」です



小江戸、川越の街並み



「山おろし」の境屋!? あっ! 「山返し」ねっ 😊



卓 話



第三十三代貫主
佐藤 秀仁 僧正様

霊気満山 高尾山



日本連盟

古河ロータリークラブの皆様、ようこそ高尾山薬王院にお来し頂きましてありがとうございます。私はこの高尾山のお寺の住職を務めております、佐藤秀仁と申します。古河ヤクルトの皆様が、毎年高尾山参拝を続けて頂き感謝しております。今日は、そんなご縁も含まれてのご来山であろうかと存じますけれどもこの卓話は、実は私からのお願いでして皆様方の想定にはおそらくこの時間はなかったんじゃないかと思うんですが、せっかくの古河ロータリークラブの皆様のお出ましということで、高尾山の歴史とその活動についてお話をさせて頂きたく、皆様方のお時間を拝借したいと思います。

実は私もロータリアンでございます。東京2750地区、八王子の町には5クラブございまして、東西南北と中央5クラブの中の東京八王子南ロータリークラブに所属をしておる次第です。今からおおよそ8年ほど前、先代の高尾山の住職のご推薦により入会をさせて頂きました。インニケーションスピーチの時に、一番嬉しいことは何かと言うと、大手を振って堂々と高尾山を降りて、そして街中のホテルで食事ができることだという話をしたら大笑いされました。それと、自分には両親もいませんし、兄弟もいませんので、ロータリーの中で大勢の兄や弟ができたという気持ちがあります。さて、「高尾山」もうこの名前はご存じかと思えます。今から15年ほど前に、ミシュランのガイドブックで三ツ星をいただいてから、その名前が広く世界中に知れ渡っていきました。日本では、観光地部門で富士山とこの高尾山だけです。都会からのアクセスもいいので、大勢の人で賑わっています。おしゃれな山ガール、インバウンドの人々、年間で、おおよそ350万人!この数というのは、世界中の山という場所で人が登る数では一番多いそうです。高尾山の魅力は、交通の利便性だけではなく、様々な工夫を凝らしたお土産屋さんや飲食店。この辺りはおろしそばが有名でございますが、おおよそ18店舗あるんじゃないでしょうか。そして、高尾山の薬王院1210年続く歴史と伝統ある文化施設があります。しかしこの高尾山というお山は、本来は人々が心を律したり正したりする日本民

族信仰ともいえる山岳信仰の修行の場所であり、さらには人々がどうしても叶えたい、どうしても解決したいといった切なる願いというものを心を静かにして、このお山の祭の中で、神仏に祈りを凝らす神聖な空間がこの高尾山のそもそものあり方でございます。これは昔も今もこれから先も変わることはなかろうか、と存じますが、世の中では今、観光的な部分が非常にプロジェクトされている状況でございます。この高尾山のお山の上にありますこのお寺は薬王院、歴史の古いお寺です。今を遡ることをおおよそ1270年ほど前の聖武天皇の天平16年、お寺が開かれました。聖武天皇はこの日本国内の荒れ果てた状態を非常に悩んでおられました。高尾山というお山の上から見渡せる限りの場所に暮らす人々が、疫病、飢饉、動乱や波乱などの争いごと巻き込まれないようにと強い願いを込めて、この高尾山のお寺は開かれました。その最初の本尊、祀った仏様は金の薬の壺を持っているのですが、これは精神的にも身体的にも全ての病というものを取り除いてくださいという、願いを込めてお参りを続けてきた、薬師様。この薬師様のお寺として開かれましたので、その名前も高尾山薬王院でございます。その当時は、天変地異ならずあちこちで大噴火ですとか、大地震とか大変な自然災害が頻発していました。さらには政治も不安定ということで、動乱や雷がやはり起きていた。さらには今では天然痘と思われるような恐ろしい疫病が流行っていた。まあ、めちゃくちゃだったんでしょうね。そんな時代に聖武天皇は仏教の力、仏様の力でこの日本という国を安納に導こうと考えながら、高尾山の山の上に薬王院が建立されたというわけでございますが、しかし1204年前、奈良時代のお寺は開かれたとはいえ、それも残念ながら荒れ果てる時代もずいぶん続いたそうです。その後南北朝時代の後期に、豊臣秀吉ゆかりのお寺、京都大御寺の、一人の修行僧春元さんが神道修行を日本の村氏の方に広めていこうというような、そんな不況の旅をして関東に帰られる。この方は、高尾山に登ってこられます。この方は山岳信仰の修行者、いわゆる山伏さんでもあったということで高尾山で修験者の修行を始めたところ、この高尾山という山は修行するには相応しい環境であると考え、この高尾山をもっともっときれいにして、たくさんの人に修行をしてもらったり、お参りをしてもらえようという開かれたお寺にしなければならぬと強い決心をなされました。この方からおおよそ600年、現在私が33代目の住職となっているわけでございます。

日本には、大本山と呼ばれる大きなお寺が3つございます。成田山「新勝寺」「川崎大師」そして「高尾

山」です。同じ信仰主義の大本山として深い御縁に結ばれております。しかしながら、高尾山は、このような山深い山寺でございますので、独自ともいえる修行の体系が今でも広く残っているわけでございます。それがこちら修元道といわれる山岳信仰の修行の方法でございます。修元道の修は実際に修行をする。修剣というのは表す、その修行の成果を自分の心に残すことなく、今度は社会に表せ、証明しろという。人生に生かせという!そういう教えがございます。「入りて学び入れて行く」というのは、山の中で修行をして、そして今度は山から出て、今度はそれを行う修行の成果を社会に発揮するということなんです、私個人的に、これロータリーと同じだなと思いました。奉仕の心で活動していくのがロータリークラブです。例会で奉仕の力を蓄えて、充電して、それぞれの活動の場所、生活の場所へ戻っていくわけでございます。例会で培った奉仕の精神を、今度は自分のすぐ近くの生活で発揮しましょうということは、やはりロータリアンと山伏というのは共通しているんじゃないかなと思います。

日本は国土の70%が山岳地帯です。この日本に暮らす先人たちは、古来より山という場所を神聖視する感覚を持ち合わせてこられました。山というのは、天に一番近くて高いですからね。空から神様や仏様が一番最初に降り立ってお住まいになられる場所が山です。雲がかかり、雨が降り、それが沢となって川になって、山のふもとの生きとし生けるものすべての命を潤してください。そんな大切な恵みを与えてくれるのが山という場所です。山を神聖する感覚が山岳信仰の礎なのです。山岳信仰修行者の精神修行の心構えというものを縦に乗せて、そして後々に日本にどんどん広がっていく仏教の教えが横の線とするとその合わさったあたりが、ちょうど自然発生的にこの日本独自の民族信仰として現れた。世の中に広まっていったのが、山伏の修行、そして教えとなっていくわけでございます。これは明治時代以前には日本中たくさん、どの町や村にも山伏さんたちが大勢いらっしゃったそうです。しかしその民族信仰の団結力を恐れた明治政府が、一切信仰は神様だけだというような、割と極端な神仏論理を打ち出して山伏を排除にかかります。という経緯があり、現在、山伏は天台宗か信仰宗に所属をしています。

高尾山には3つの修行の柱がございます。火の行、水の行、山の行といいまして、火の行といいまして護摩焚が火の行。8メートル四方の護摩壺壇を組んでこの中にたくさんの人々のお願ひ事を記したお札を納めて、そして山から降ってきた雲木の枝を跨げ

て火を放ち、火柱10メートルほどの圧力のある火炎に向かって、世の人々の祈りというのが、神仏に届きますよう祈りを降らす儀式がこの護摩焚きです。最近では一昨年の3月10日に延べ6000人のお参りの方がこの火渡りを行ったばかりでございます。「よく火傷しませんか?」と尋ねられますけど、はい正直に申しますと火傷はします。生身の人間です。しかしそれをどう捉えるかこの時はですね。実はあんまり熱さを感じないんです。もう宇宙になっている!この火の渡りまで1時間ぐらい長いお経を唱えるんですけど、その中で自分の気持ちを高めていく。そしてこの炎が不動明王という仏様を表すんですけどもその不動明王をと自分自身が一体となるというような気持ちを込めてお経を唱えてこの中に入っていきますので、音も聞こえず、熱さも感じないその時は痛くないんです。でも、家に帰れば生身の人間ですので、いててて、足に穴が開いているそんな感じですね。その他にも、滝に打たれる水行。本当に水が豊富な滝があるんです。大自然の営み、そしてその営みによって私たちは生かされているわけですが、その営みの中に我々の命が融合している。水圧は痛い、水は冷たい。滝場は緊張する。そういった普段生活している場所とはだいぶ違った空間の中で自分自身の気持ちを見つめるんです。私たちは大切なことという、困難が強いられているときに、結構そういうことに気づくことが多いですよ。命の尊さ、健康の尊さ、家族や仲間の尊さや文化やそういったものは自分の都合のいい状況ではなかなか気づけないですから。こういった少し緊張していたり、痛かったり寒かったり冷たかったりという逆境に身を置きつつ、自分自身を見つめ直していく作業がこのお滝の修行ですから、これは動きのある大生の中の座禅と呼びましょうか。そして私たちは山の中を修行する修行者でございます。これは私たちはこの高尾山はもちろん、富士山ですとか霊山と呼ばれるような山の中を駆け巡る歩き続けるというような修行も行います。特に、神殿大菩薩先ほどご案内の神殿、先人たちが切り開いた修行の山がまだ残っています。特に奈良県吉野の大峰山。これは別名吉野山と言われ桜の名所ですよ。あの山を、本当に私たちは修行の道場として、何日も、何日も歩き続けたりします。山の中には仏像も、お寺もそんなものはございませんので、先人たちが祈ってきた大きな岩や木、景色、そういう物を森羅万象としてとらえるのです。本来はものすごく大事な恵みというものを持ち合わせているのに、しかしそれだけでは満足できずに受け入れたり、何か書付けを見たりとか。あれもこれもやりたい、どうのこうのという、いわゆる本能によって私た

ちは見れてしまって、正しい判断がなかなかできなくなる。これも人情だと思いますけれども、神仏にお使いをし、祈りを凝らす修行者はそれではよくないということで、こういった命の確認をしつつ山の中を何時間も何時間も歩き続けていくわけでございます。私たち山伏は山という場所を大きな仏さんの体だというふうに捉えます。大仏さんですね。大仏の体の中に山節が入って修行します。汗かいて息を切らして、時には雨に打たれて風に吹かれてというような中で、その大仏さんの体の中ですから、この山の中の自然現象。すべて仏教のような仏様の温もりや、日差し、風も雨もその中に生息している。草木も鳥も虫もすべてが仏の姿であり、仏教の教えそのものだと私たち山伏は捉えるわけでございます。その山の中で歩き続ける時に、こんな短いお経を唱えています「懺悔懺悔六根清浄」「さーんげさんげろっこんしょうじょう」ひたすら、これを唱て13時間くらい歩き続けたりもします。懺悔というのは、普段、人生を歩く中でついつい意識のないまま犯してしまった罪というものを、素直な気持ちになって告白をすることです。小さい頃、いたずらをしてお父さんやお母さんに叱られて正直に告白しますよね。そのような気持ちでしょうか。時には、私たちが生きていく中では、腹を立ててみたりとか、人をちょっと恨んだり妬んだり、そんな感情をもつこともありますよね。出された食事、その食材の命の隅々まで感謝をして食べたかということ、なかなかね。時間がなかったりすると「いただきます」も「ごちそうさま」も言わなかったりとかという場合もありますよね。でも、それは仏教では罪だと、小さな罪がどんどん心の中に積もっていくと、本来、純粋でピカピカな自分たちの心が曇ってしまう。そして、人は迷ってしまう。正しい判断ができなかったり、本来持ち合わせている本質的な恵みに気づけなくなってしまう。だから、懺悔悔い改め、反省の心を起こした上で、唱えるのです。六根というのは私たちの感覚器官です。目と耳と鼻と舌と体と心これらの一つでも煩惱の曇りによって汚れてしまうと、やっぱり人は迷ってしまうので清浄するのです。山の中の匂い、風、日差しのぬくもり、すべてが仏様の良いエネルギーを受けて一心不乱に声を出し、身体を前に進める。山の中から修行を受けて出てきた時には、身も心も知らず知らずのうちに掛け念仏と同化していくのです。そして世の中の人のために尽くして祈る。そんな奉仕の気持ちで、今度は実社会で活躍なさいよ!という使命が私たちには与えられているわけでございます。

さて、この高尾山は令和2年に東京都では唯一、日本遺産に認定をされております。その名も「霊気万山高尾山」がキャッチフレーズです。霊気万山というのはどういうことかということ、生命の力(霊気)が満ちあふれることを指します。山の中に霧が立ち込める様子は神仏の力が目に見えて現れること、その力でこの山が覆い尽くされていることを霊気万山という言葉で先人たちは表していたそうです。これをもっともっとわかりやすく説明しますと、この高尾山という山は、いろいろな命が活発に活動続けている場所です。まだまだ寒い日もありますが、もうすぐ春。その準備を山は始めています。どんな小さな草も木も鳥も虫たちも揺れ、500年を超えるような大きな木もその与えられた命というものを精一杯、何の文句も言わずに争い事もせずそこにいます。お山の中の空気というのは、一生懸命精一杯生き抜いている様々な命、生命力の表れなんです。今日、皆様にはせっかくの登山でございます。皆様のそれぞれの呼吸で、その生きる力を、それぞれの心の中や体の中に存分に取り込んで頂きたいと存じます。必ずや、お山をおくだりになられましたら、皆様方それぞれの人生やお仕事に、そしてロータリー活動にその生きる力が必ず行き届くことと思っております。それではちょうど30分というお時間をいただいておりますので、卓話を終わらせていただきます。皆様には高尾山の神仏のご加護によりまして、ますますのご繁栄と、そして皆様方それぞれの御健勝、さらにはそれぞれの事業がご発展なされますようご祈念を申し上げまして、歓迎と感謝の気持ちを込めまして、終了させていただきたいと思います。ご来場、誠にありがとうございました。

神様の呟き

帰りのバスの中でのこと。「山おろしは、そば境屋で〜す」と前田美代子さんからのお知らせ。『ん?山おろし?山返しの間違いかな😅』比較的、年配者の私はすぐに気がつきました。でも、これまた比較的、若者の彼女にとっては聞きなれない言葉だったのでしょね。グーグル先生曰く、「山返し」とは、無事に旅を終えたことを祝って一杯やる風習のこと。旅に出ると山の神様を連れてきちゃうから、清め酒で神様を山に返すところから、そう呼ばれるのだそうです。埼玉や茨城に残っている習慣みたいですね。山岳信仰の礎ともいわれる高尾山の神様も、古河クラブのメンバーに魅了されたのかもしれないね。「美代ちゃん!六甲おろしじゃないんだから、山返しですよ😅」そして、4号線でせっかちな私の母を下車させました。こっちは、ほんとの4号おろしかな😅

編集後記(百)



ロータリー知識クイズ 第28回

RI会長と会長エレクトを含む理事は、19名である。

はい いいえ

*答えは、次回の週報に。

*第27回の答えは、■はい です。